

また つだ

暮らしたいまち。ずっと暮らし続けたいまち。

2014年 松田町町勢要覧

Community Town MATSUDA

町制施行105周年 町勢要覧2014

◎東経139°08'21"
 ◎北緯35°20'54"
 ◎面積37.75km²
 ◎周囲35.72km
 ◎東西4.77km
 ◎南北12.12km
 ◎人口11,286人
 ◎世帯数4,505世帯
 ※役場所在地 ※27年1月1日現在

世界の主な首都からの松田町
 🇺🇸 ワシントン(アメリカ合衆国)から6,470km
 🇫🇷 パリ(フランス共和国)から9,747km
 🇮🇹 ローマ(イタリア共和国)から9,876km
 🇨🇳 北京(中華人民共和国)から2,063km
 🇰🇷 ソウル(大韓民国)から1,114km
 🇮🇳 デリー(インド共和国)から5,818km

松田町

伝統と文化、素朴な笑顔のある懐かしい町。

春は四季折々の花々、冬は冠雪した富士と桜の花。
 豊かな自然環境に恵まれ、ゆとりのある生活が営まれている町。
 そこに確かに根付く伝統や文化、芸術。
 国際交流による異文化との触れ合いによる新しい文化の創造。
 都心から少し足を伸ばした場所で出会える素晴らしいロケーション。
 そしてそこに住む、人情味あふれる人々。
 10年後に向けてもっと暮らしつづけたい町に発展し続けている町。



A 富士山を望める松田町
 B 町の伝統的な和太鼓
 C 寄のロウバイ
 D 寄の清流
 E あしがら花火大会
 F 浴衣姿で国際交流
 G 松田大名行列の奴
 H 決意も新たに新採用職員たち

CONTENTS

22

まっただの
 これから

18 まっただのあゆみ

12

四季手帖
 MAP

04 四季手帖
 季節のイベント・おすすめスポット
 06 春
 08 夏
 10 秋
 冬

02

新成人105の人文字
 松田町長とあいけん

14 ふるさと対談
 歌手・北川大介さん
 俳優・山崎一さん

観光

23 祭り

24 まちづくり

25 環境

26 保健福祉

28 教育

29 文化

30 文化交流

31 行政議会

32 施設紹介



H

G



町制施行105周年を記念して 新成人105の人文字

平成27年1月11日成人式にて



ごあいさつ

松田町長 本山博幸

平成26年4月1日、松田町町制施行105周年となり、また平成27年4月1日には、松田町と寄村が合併し現在の松田町になって60年目の節目の年を迎えることとなります。連綿と続いた歴史を胸に新しい時代に向け、本町のさらなる発展のため、全力を傾注し町政に取り組んでまいり所存でありますので、皆様からの一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地方自治体の目的は、町民の福祉の増進であります。町民の皆様方に幸福感を持って暮らしていただけるよう努めてまいります。また、まちづくりの基本は、行政の積極的な情報公開と町民の皆様のお声にお応えし、町政に生かしていくことと認識しております。町民の皆様と行政がともに夢と希望を語り、協働するまちづくりを推進してまいります。この冊子をご覧いただくことで松田町を知っていただくきっかけとなり、多くの皆様から松田町の歴史や文化を感じ、富士山や相模湾を望める松田山ハーブガーデンを始めとした景勝地や四季折々の行事にぜひお越しただければ幸いです。

町民一人ひとりが心より皆様に歓迎し、「おもてなし」いたします。

bis 吉沢実 作曲

[OPTION]

平成元年5月15日制定

町の音



町章

西丹沢の美しい山並みと酒匂川の清流とを「マ」という字に形どりふたつの弧によって互いに手をつなぐ隣人融和の精神を表現しています。昭和43年10月23日に制定されました。

町の木 ナンテン



町の花 コスモス



町の鳥 セグロセキレイ



水と緑を大切にする 潤いのあるまち

Event 最明寺史跡公園 ★



Event 若葉まつり ★



Event 最明寺例祭 ★



Event 延命寺ぼたんまつり ★



まつだまち自慢の自然
四季手帖








Event 寄神社例祭 ★



Event 寄しだれ桜まつり ★



Event Calendar

-  3月第1土曜日 寄神社例祭
-  3月下旬~4月上旬 寄しだれ桜まつり
-  4月10日 最明寺例祭
-  4月29日 延命寺ぼたんまつり
-  5月5日 若葉まつり

★ フォトコンテスト作品  12・13ページのMAPへ



若葉まつり
丹沢の峰々に新しい緑が萌えいつる5月。こどもの日に開催される若葉まつりは、都市と農村の交流と、新緑を祝うお祭りです。青空に鯉のぼりがたなびき、子どもたちの歓声がこだまします。
マスのつかみどり大会をはじめ、農産物の即売会など、さまざま楽しいイベントが行われます。都会では味わえない、自然とのふれあいは、きっと子どもたちの心にあざやかに残ることでしょう。

の周りをぐるりと桜の木が囲んでいます。法要の営まれる4月は桜が見頃を迎え、ハイキング途中に立ち寄り人々の目を惹きつけています。園内にはかつての護摩堂跡に往時の石垣が残されていることから、古来より仏縁の深い場所であることをうかがわれます。承久3年（1222年）に夢のお告げを受けて最明寺を開いた浄蓮上人を偲ぶ法要は、現在松田庶子地区を中心とした最明寺の世話の方々を受け継がれ今日に至っています。

最明寺例祭

松田山山頂近くに広がる最明寺史跡公園では、毎年4月10日に「最明寺例祭」が行われます。人里離れた静かな公園には大きな池があり、池

を癒しています。
寄しだれ桜まつり
寄地区に春の訪れを告げるのは、絢爛豪華なしだれ桜の花々です。中でも寄地区の五大しだれ桜と言われる「萱沼」「宇津茂」「虫沢」「中山」「土佐原」の各地域のしだれ桜は見事の一語。特に土佐原のしだれ桜は樹齢230年とも言われています。車では訪れにくい場所にあることから、この時期にはハイキングコースとして、ハイカーたちの目を喜ばせ、疲れを癒しています。

寄神社

源頼朝が妻政子の安産祈願のため相模十ヶ寺の一つに選んだ弥勒寺が前身。入口には周囲6・4m、樹高約30mの大杉があり、町の天然記念物に指定されており、「かながわの名木一〇選」にも選ばれています。毎年3月の第一土曜日には例祭が行われます。

Event あしがら花火大会 M



寄、中津川の水遊び



夏

Summer

Event 百八ッ火



Event 桜観音例祭 K



Event 寒田神社例大祭 I ★



心とからだを鍛える
活気にあふれるまち

Event まつだ観光まつり L

国際交流



Event ハーブフェスティバル G



Event 延命寺
四万八千日 J



Event Calendar

- G 6月上旬~中旬 ハーブフェスティバル
- H 6月下旬 ホタルの夕べ
- I 7月31日 寒田神社例大祭
- J 8月9日 延命寺四万八千日(縁日)
- K 8月18日 桜観音例祭
- L M 8月 第4土曜日 まつだ観光まつり・あしがら花火大会

西平畑公園の ハーブフェスティバル

6月のハーブガーデンは、一面ラベンダーの紫色、他にもベルガモット、ダイヤースカモマイルなどの赤や黄色に染まり、爽やかな香りに包まれます。遠景まで見える絶景は、ハーブの香りとともに訪れたあなたの心を癒してくれるでしょう。

寒田神社例大祭

寒田神社は仁徳天皇3年(315年)ご創建(古風土記残本や新編風土記稿による)と伝えられる古社です。御神宝として弥生時代後期の白木の椀大小一組が伝えられています。寛永3年には、三代將軍家光より150石の朱印地を賜るなどしました。その後酒匂川の洪水で多くの建物を流出した歴史があります。境内には樹齢数百年以上の古木が残り、諸願成就の篤い信仰は今日に継承されています。

その寒田神社で夏に行われる例大祭では、夏の太陽に照らされて、寒田神社から神輿が出ます。「やいとーさっせい」のかけ声とともに勢いよく出た神輿は、酒匂川に向かいます。酒匂川で神輿は裸ぎをすませ、再び

かけ声とともに町中を練り歩きます。
まつだ観光まつり

8月第4土曜日に開催される夏の一大イベント「まつだ観光まつり」は、見所満載のお祭りです。中でも「大名行列」は小田原11万3千石の格式を再現した絢爛豪華な歴史絵巻として広く知られ、「かながわの民俗芸能50選」や町の無形文化財の一つに数えられています。大名行列を中心として町内を練り歩くパレードには子ども奴や神輿が続きます。

太陽が西に傾きかける頃、松田山の頂には、「百八ッ火」の松明がともります。その昔、松田城落城の時、農民たちが落武者たちを導くためにたいた送り火とも、五穀豊穡を願う農民たちの祈りともいわれています。一本一本の松明は、祈りをささげる一人一人の「手」……「百八ッ火」と書いて、「ひやくはつて」と読む由縁はここにあるのかもしれませんが。

夜になると「あしがら花火大会」が始まり、祭りはクライマックスへ。あしがらの晩夏を鮮やかに彩る酒匂川の花火と松田山の「百八ッ火」の松明とは対をなす趣があり、一見の価値があります。

酒匂川からのぞむダイヤモンド富士 S ★



Event まつだ産業まつり R



人間性を育む 文化の香り高いまち



Event 秋のハーブフェスティバル P ★



みかん狩り Q



Event 寄自然休養村清流マス釣り大会 Q



Event Calendar	
N 9月上旬～	秋の味覚狩り (栗拾い・いも掘り)
Q 10月日曜日	寄自然休養村 清流マス釣り大会
P 10月中旬	秋のハーブフェスティバル
Q 10月下旬～12月	秋の味覚狩り(みかん狩り)
R 11月	まつだ産業まつり

寄自然休養村
清流マス釣り大会

西丹沢を流れる中津川の清流にある釣り場では、年に2度、清流釣り大会が開催されます。春は新緑とともに、秋は紅葉を楽しみながら、どなたでも溪流釣りを楽しむことができます。

西平畑公園
秋のハーブフェスティバル

松田山ハーブガーデンでは年に2回ハーブフェスティバルを開催しています。秋(10月)開催のハーブフェスティバルは「セージまつり」とも呼ばれ、肉料理やお茶などに使われるセージが見頃を迎えます。セージの紫や赤色が広がる庭園は目にも鮮やかです。また、すっきりとした晴れの日が続くこの季節は、青空に富士山が映え、足柄平野から相模湾まで見渡せます。ハーブ館内のレストランでは季節に合わせたハーブ料理も楽しめます。

まつだ産業まつり

松田を彩る産業のまつり。商業、工業、農業などが一堂に会し、町や

近隣市町村の消費者に商店街活動の紹介、企業のPR、農産物の販売を行います。
姉妹町交流として、千葉県横芝光町のネギや長野県千曲市のリンゴなどの特産品の販売も行います。

秋の味覚狩り

(栗拾い・いも掘り・みかん狩り)

自然豊かな松田町では、秋の味覚「いも」や「栗」が楽しめます。9月上旬から11月上旬にかけては、収穫を楽しむ人々で農園は賑わいます。土の中から赤紫色のずっしりと重い大きなさつま芋を掘り上げた時の喜びは格別です。

かながわ名産100選に数えられるミカンを味わうなら、みかん狩りにトライしてみたいかが。松田山の南側斜面にひろがるみかん園では、太陽の恵みをしっかりと浴びた粒ぞろいたちが、皆さんをお待ちしています。

最明寺公園の雪景色 **Z**★



Event 延命寺観音例祭 **W**



Event 道祖神(どんど焼き) **V**



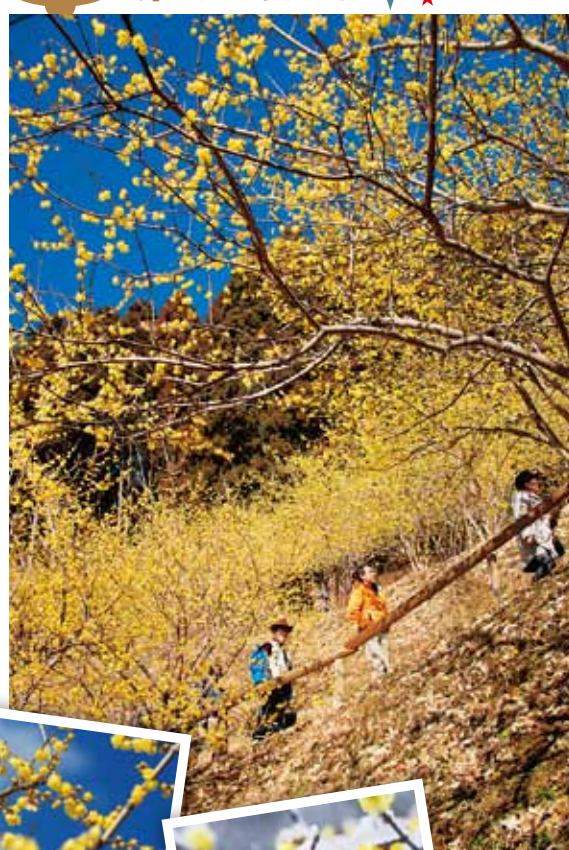
Event きらきらフェスタ **T**★



まつだ桜まつり **Y**



Event 寄ロウバイまつり **X**★



平和に満ちた心のかよいあうまち

Event Calendar

- T** 11月下旬~12月25日 きらきらフェスタ
- U** 12月28日 延命寺蔵の市(だるま市)
- V** 1月14日 道祖神(どんど焼き)
- W** 1月18日 延命寺観音例祭
- X** 1月中旬~2月下旬 寄ロウバイまつり
- Y** 2月中旬~3月中旬 まつだ桜まつり



きらきらフェスタ

11月下旬、松田山がイルミネーションに彩られると、恒例の松田きらきらフェスタがいよいよスタートします。夕闇せまる町から松田山を見上げると、巨大なクリスマスツリーに見立てたハープ館が浮かび上がります。会場までの沿道にもイルミネーションが飾りつけられ、訪れた人々を暖かな光が導きます。日が沈んだ後、約18万球の電飾に彩られた西平畑公園のきらめきと足柄平野の夜景が溶けあう光と闇の夢幻空間が広がります。

延命寺観音例祭

延命寺の縁日である1月18日は、「大祈禱法要」が執り行われます。

年初に迎える特別な縁日であるため、近隣にある曹洞宗の寺院より20人ほどの住職が集い、法要と開運厄除けの祈禱が盛大に行われます。

寄ロウバイまつり

宇津茂地区の南斜面に広がる寄ロウバイ園には、約1500本のロウバイが植えられています。早春のまだ寒い青空のもと、小さなつぼみをほころばせて黄色い花が咲きだすと、あたりには甘い香りが漂います。「寄ロウバイまつり」は1月中旬から

2月下旬にかけて開催され、地元の農産物や加工品、お土産等を扱うお店が出揃います。

道祖神(どんど焼き)

子どもの成長を祈るお祭り、地元では道祖神を「塞の神さん」、祭りを「芝灯祓いの祭り」と呼びます。祭りの日には青竹などを束ねて飾りを施した「どんど」を川辺に作り、道祖神を祀る祭壇を整えます。正月飾りなどの縁起ものを集めて焼き、その火で焼いた餅や団子を食べると病気をしないと。書き初めをその火にかざして高く舞いあがると書道が上達するといわれています。

まつだ桜まつり

早咲きの河津桜が松田山を春色に染める頃、西平畑公園は春爛漫の季節を迎えます。一年でもっとも松田山が賑わうシーズンとあって、酒匂川の河川敷に臨時駐車場が設置されるほか、シャトルバスが関東近隣から訪れた大勢の観光客を桜の花咲く公園へと誘導します。山道を走るふるさと鉄道もお客さんに乗せて大活躍です。ハーブガーデンも季節のハーブたちが心地良い香りを漂わせ、さながら空に浮かぶ庭園のようです。

四季手帖 MAP



松田町観光情報のホームページ ▶▶▶

松田町 風景さんぽ

検索

<http://town.matsuda.kanagawa.jp/>



- A 寄神社例祭
- B 寄しだれ桜まつり
- C 最明寺例祭
- D 延命寺ぼたんまつり
- E 若葉まつり
- F 最明寺史跡公園
- G ハーブフェスティバル
- H ホタルのタベ
- I 寒田神社例大祭
- J 延命寺四万八千日
- K 桜観音例祭
- L まつだ観光まつり
- M あしがら花火大会



- N 秋の味覚狩り(栗拾い・いも掘り)
- O 寄自然休養村清流マス釣り大会
- P 秋のハーブフェスティバル
- Q 秋の味覚狩り(みかん狩り)
- R まつだ産業まつり
- S 酒匂川からのぞむダイヤモンド富士

- T きらきらフェスタ
- U 延命寺歳の市(だるま市)
- V 道祖神(どんど焼き)
- W 延命寺観音例祭
- X 寄ロウバイまつり
- Y まつだ桜まつり
- Z 最明寺公園の雪景色

ふるさと対談

町の素晴らしさを全国に発信しようと、「ふるさと大使」が誕生しました！
松田町出身のお二人に町への想いをたっぷり語っていただきました。



Part 1

松田町ふるさと大使・歌手

松田町長 本山博幸 *Hiroyuki Motoyama* × *Daisuke Kitagawa* 北川大介さん

「初代・ふるさと大使」に就任したのは歌手の北川大介さんと俳優の山崎一さん。北川さんとの対談は、現在、町で行われている芸術活動の話題からスタートしました。

町長 歌手という仕事は、聞き手の人たちに夢や希望を与えることができる素敵な職業ですね。夢や希望を提供する意味では、町づくりも似ているところがあります。

北川 そうですね。新しいものを創るということでは、共通する点が多いのではないのでしょうか。

町長 町には芸術家の方々やそのご子息がたくさんいらっしゃいます。そういう方々から町をアピールしていただき、松田町を盛り上げていただければと考えています。

北川 私は、今までもステージでは、「松田町出身です。」と言っています。これからも言い続けることで、松田町をアピールしていきたいと思っています。

自然と歴史が融合した風土だからこそ感性がはぐくまれ、芸術家や表現者が集まる松田町。話題は、そんな表現者の一人でもある北川さんのお仕事やふるさとのエピソードへ…

北川 私は松田町出身である事を積極的に言っていますが、足柄上地域はまだ

れて。

町長 ぜひ、町としては嬉しいです。大介さんが思う町の特徴って何ですか？他の場所とは違うと感じられることはありますか？

北川 あの山並み、あの景色は他にはない魅力を感じます。だから極力、松田町のイベントには顔を出したいと思っています。

町長 ありがとうございます。松田町の良さを皆がもっと感謝して、助けあって、自分もそれに役立てるなら、時間や労力を割いても協力したい。「北川大介」自身を作ってくれた町ですし、恩返しをしたい。

やはり人を育てるのは環境です。この町で生まれ育ったからこそ、人間性を含めて今の自分が出来上がったと思います。

町長 深いお言葉ですね。話題は尽きることはありませんが、大使としての意気込みや、こんな町になっ

てほしいという想いを伺いました。

北川 これからは見るだけではなく、参加型企画で人を集めることが求められると思います。松田町も好条件である立地を生かして「自然や景観を生かした町」になっ

レギュラー番組の中で、町の話題を出していますよ。

まだ有名人が少ないですね。

町長 私たちの年代では大介さんにもっともっと頑張ってもらえるよう、支援していきたいと思っています。

北川 ありがとうございます。色々なレギュラー番組の放送で、河津校の話題を出していますよ。ラジオ日本の「えんか侍」は、もう6年になりますから。松田の名も相当出ますし、河津校の話題なんか聞いて、「行ってみたいね」と話題も膨らんでいきますよね。

町長 大介さんの子供の頃で、何か町にまつわる思い出はありますか？

北川 学生時代はずっと野球をやっていましたね。近所の河川敷を使ったりして。あと小学校、中学校では生徒会長もやっていました。

町長 文武両道ですね。



きたがわ・だいすけ
1970(昭和45)年9月8日生まれ。
松田町出身。歌手。高校時代は野球部の投手。専修大商学部卒業。米国にゴルフ留学。98年8月、日本クラウンより「前橋ブルース」で歌手デビュー。2009年12月、第51回日本レコード大賞優秀作品賞受賞。

この町で生まれ育ったからこそ、今の自分が出来上がったと思います。



ふるさと大使としての決意を改たにして握手

松田町ふるさと大使・俳優

山崎 一さん



ふるさと大使 対談

松田町長 本山博幸
Hiroyuki Motoyama

Hajime Yamazaki

文化に意識の高い人を 育てるといふことは、 未来を耕すことにつながるんだと思う。

かけになっている感じですね。

町長 俳優という職業を通して、また「ふるさと大使」として、町に対する思いなどはいかがですか？

山崎 そうですね、やっぱり文化的に意識の高い町であってほしいですね。文化は精神で、全てそこから始まると思います。文化に意識の高い町民を育てるといふことは、多分、未来を耕すことにつながるんだと思うんです。

町長 “未来を耕す”、いいですね。

お金がかかるからやらないではなくて知恵を絞って必要なお金をかけることによって人材を育て、文化的な意識も芽生える。そうした人たちが歴史や心を大切にしながら、新しいことにどんどん挑戦してふるさとへ戻ってくる。まさに温故知新ですね。

山崎 はじめて「ふるさと大使」のお話をいただいた時、僕に何ができるのか？僕でよいのか？戸惑ったんです。



やまざき・はじめ
1957(昭和32)年9月13日生まれ。松田町出身。俳優。東海大相模高校から東海大へ進み工学部応用物理学科を卒業後、早稲田小劇場に入団。その後小劇場を中心に活動。1995年に出演した語学学校「駅前留学NOV A」のCMで、サラリーマン「鈴木さん」を演じ全国に知られる。テレビ各局のドラマに数多く出演。映画「風に立つライオン」などに出演。

そんなに偉そうなお話でいいことはできませんし、自然体でいきたいです。少しでもお役にたてれば嬉しいなど。演劇という文化を通じて文化面をPRできたらいいいですね。町長さんもまずは一度、私のステージを見に来てください。

町長 それはぜひ！松田にも1000人収容のホール「松田町民文化センター」があるので、山崎さんのお芝居でふるさと公演していただけたらいいですね。

山崎 じゃあ、そこで一休さんをやりましょう(笑)。映画も松田で撮ればいいですね。東京から日帰りの距離です。

都心から日帰りの距離で、ロケ地になるところがいっぱいあるのになあ。

から。都心からこんな近くにロケ地になるところがいっぱいあるのになあ。今は神奈川を飛び越えて静岡や群馬にまで行ってしまいます。映画の撮影はスタップも多いし、移動や泊まるころなど、ほんと大変なんです。日帰りできるところって、いっぱいアピールしますよ。映画の舞台になれば観光地としても魅力がでますしね。寄もいいし、川からの眺めもいい。

町長 以前、今村昌平監督・役所広司さん主演の「うなぎ」や、最近では小



ふるさと大使の委嘱状を渡されて記念撮影

栗旬さん主演のテレビドラマ「ポーター」などでロケ地になりました。もっと積極的に活動して町の受け入れ態勢も整えたいですね。

町長 最後は山崎さんのお勧めの景色や場所について伺ってみました。

山崎 みかん山から足柄平野を見渡して、酒匂川に向かって相模湾が望めるのが好きですね。川でアユ釣りした思い出もあります。それと酒匂川の鮎場あたりから見る富士山がすごくいい。

町長 「富士山と桜が一緒に見える」というのがとても人気なんです。特に冬の雪がもつた富士山。早咲きの桜がある松田だから観れるここだけの景色です。メディアでも話題になり多くの観光

客が訪れるようになりました。秋のみかん狩りも大盛況で箱買いする人もいて足りないくらいです。

山崎 そういえば、親戚が松田山にミカンの木を持っていて、毎年みかん狩りをしていました。あの近辺は確かミカンの収穫できる北限となっているんですよ。松田のミカン、大好きです。酸っぱくておいしい。手が黄色くなるまで食べました。

町長 温暖化のせいかな、今は少し甘くなってきているらしいですよ。

山崎 へえ、そうなんです。途中で沢があり、沢ガニも採っていたものです。

町長 沢ガニは水のきれいな所にしかいませんからね。沢ガニの唐揚げもおいしいですよ。そういう貴重なものをお客さんに提供できればいいですよ。都内から電車でも1時間半ほどで日帰りも可能だし、観光農業もできる。そして子どもからお年寄りまで楽しめる。

山崎 気候が温暖でよい分、松田の人は優しく気さくな人が多いですね。私もどこまでお役に立てるかわかりませんが、自然体で「松田よいとこ」をいっぱいお伝えしたいと思います。

町長 山崎さんの言葉、しっかり受け止めてさせていただきます。今日はありがとうございました。

俳優の山崎一さんと本山町長は、ともに東海大学卒業でスポーツ好き。ふるさと大使任命式の後の対談は、「松田百年記念誌」を手に「懐かしい！」数々の思い出話がたくさん飛び出しました。

山崎 「巨人・大鵬・卵焼き」の世界でしたから、野球が大好きでした。原辰徳監督が私の1学年下で東海大相模が一番強かった時代。高校時代は3年間、甲子園へ応援に行きました。

町長 東海大相模の攻めの野球はいいですよ。私の息子の友人も東海大相模に行つて野球をやっていましたよ。山崎さんは足が速かったとか。昔は子ども会の駅伝大会に出場されたそうですね。

山崎 そうそう、確か11区(現・沢尻)から出場していました。私が子どもの頃は何々区で地域を表していましたよね。(松田百年を手に取り)思い出した！

寒田神社例大祭、それに大名行列。懐かしいですね。そういうのは寒田神社例大祭につきそいでいる天狗に憧れてました。強そうな感じがして、周りを従える様がかっこいいというか、ヒーローのような…

町長 大名行列といえば、町の無形文化財になって、今、観光行事として売り出しているんです。最近、国際交

流で外国の方の参加もあるんですよ。話は思い出から山崎さんが俳優になつたきっかけやこんな役をやりたいたいなどお芝居の話へ…

山崎 いまはヒーローっぽい役というのは興味ないんです。なんていうか、情けない役の方が魅力を感じるなあ。人の悲しい部分を秘め、痛みが分かるような、正直者を演じたいです。芝居が好きになったのは、思えば延命寺にあったさくら幼稚園時代ではなかったかと…卒園の謝恩会で「一休さん」の寸劇をやつたんです。僕は小坊主役でした。音楽に合わせながらステージに出て踊った瞬間、会場がどこと笑いに包まれて、すごくウケたんです。「これは何なんだ」と思いながら一種の快感のようなものを覚えてました。それに引き憑かれました。劇のあいだ中、お客さんがみんな幸せそうな顔をしていました。すごいなあと思つて。そんなことがあつて小学校でも学芸会に出るのが楽しみでした。「運動会と学芸会の時だけは山崎の目が輝いている」なんて言われていました。それから成人して俳優業に就くまで15年くらい、ずーっと。

町長 物心ついた時から役者さんになりたかつたんですね。

山崎 今考えるとそれらが仕事のきつ

まつだのあゆみ

1909
(明治42年)

松田町が誕生
松田村が松田町になりスタート、町制が施行されました。町は生活基盤を急速に整えるため下水や井戸などの準備に追われていたようです。町民が楽しみにしていた記念祝賀会も行われず、あたふたした幕開けとなりました。ここから生活基盤重視のまちづくりが始まったのです。

1923
(大正12年)

関東大震災で壊滅的被害を蒙る
寄小学校は倒壊。役場や郵便局・警察署などは半壊。十文字橋・籠場橋は崩落。さらに被害を大きくしたのは、その後に襲来した豪雨で山崩れが多発したこと。地震で地盤が崩れたいたところに雨の猛威が重なったのです。震災から立ち直り、普通の生活に戻るまで3〜4年かかりました。

1927
(昭和2年)

小田急全線開通。新松田駅が開業する
新宿・小田原などと並ぶ5大駅（主要駅）として新松田駅が開業しました。4月1日の開通当日は祝賀気分にあふれました。「駅付近の家は万国旗提灯を掲げ、空には開通を祝う花火が打ち上げられ…」と、当時の横浜貿易新報は伝えています。

1931
(昭和6年)

松田で公認競馬が行われていた！
大正14年から昭和6年まで春季・秋季競馬が開催され、毎回2〜3万人の観客を集めました。多い時には120頭が出走し盛り上がりを見せました。戦争の影響とともに昭和7年、松田競馬は幕を閉じました。跡地は現在、松田中学校や住宅街となっています。

1934
(昭和9年)

丹那トンネルが開通
熱海と函南間に長さ7804mを複線断面で掘削する大規模な工事を18年間かけて行い、丹那トンネルが完成。その結果、熱海線が東海道線となったため、国府津―沼津間は支線として「御殿場線」に改称。一日100本以上の旅客、貨物列車が往來していましたが、20数本の区間運転に減少しました。

1944
(昭和19年)

横浜から学童疎開の児童がやってきた
第二次世界大戦が激化し本格的な本土空襲の可能性がでるなか、松田町と寄村が学童疎開の受け入れを始めました。計340名の児童が横浜からやってきました。疎開先は松田国民学校・延命寺・寄国民学校・福昌院。地元の子どもたちと一緒に坪石あげの仕事をするなど交流もあつたようです。

1946
(昭和21年)

寄村弥勒寺で大火、32戸全焼の大惨事
郵便局・診療所・駐在所など32戸を全焼する大火災が発生しました。被害にあった189名は国民学校へ避難する事態となりました。当時、葉煙草の産地だった寄村。神奈川新聞には「悲惨 寄の農民 煙草残らず」と、悲劇の被害記録があります。

1955
(昭和30年)

松田町と寄村が合併
この頃、昭和の大合併が始まりました。弱小町村として取り残されたいための複数の合併案を基に、数年にわたって近くの町や村が検討に入りました。松田町と寄村は、さまざまな事情により紆余曲折ありましたが、合併することになりました。



東海道本線松田停車場
上/明治22年(1889)年開業当時。道了尊・富士山・大山への参拝客の中継地点として大いに賑わいました。下/現在の様子

小田急全線開通
酒匂川を通過する小田急線



関東大震災
特に被害が大きかった松田駅周辺と現在の警察署付近。現在の石川薬局から駅舎方面



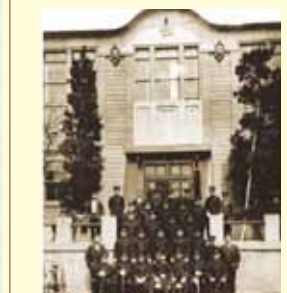
松田競馬
当時の人々たちにとっての一大娯楽

松田町がいちばん輝いた頃

主要路線が乗り入れとともに発展した松田。多くの人々が買い物や遊びに訪れました。芸妓さんが何十人もいたり、競馬場があったり…旅館や飲食店も増えました。蜜柑・葉煙草・米・養蚕も好調で商業・農業も好景気。昭和8年頃まで輝きを続けました。



神奈川県農工銀行松田支店



松田警察署



御料理・旅館 吾妻館



学童疎開
横浜市鶴見区から末吉国民学校、同市南区から桜岡国民学校の児童を受け入れた。上/横浜末吉国民学校6年生男子。下/58年ぶりに学童疎開の地、松田を訪れた時の様子



1957
(昭和32年)

ロマンスカー、いもむし特急就行
小田急ロマンスカー3000形「SE」がデビューしました。団塊の世代が小学生の頃あこがれていた「いもむし」。ピーポーの音は警告音の意味もありますが、まさにロマンスカーそのものでした。ロマンスカーと松田町の風景はテレビやポスターなどによく登場します。とても絵になるコンビのようです。



あこがれのロマンスカー
「ピーポーの電車」で親しまれていた

1960
(昭和35年)

蜜柑の松田山は黄金の山

大正時代から多くの農家が蜜柑栽培に携り、蜜柑相場で一喜一憂している様子の新聞記事が多く出ています。戦後には輸出も好調、新松田駅前に蜜柑の直売所ができた小田急が「みかん狩り特別列車」を出したりと、消費者ニーズが拡大。松田の蜜柑は飛ぶように高値で売れました。



みかんオーナー制
平成10年には観光農業による活性化を目指しみかんオーナー制がスタート。現在は15農家がオーナーみかん園の園主です

1969
(昭和44年)

東名高速道路が開通

国の計画が始まったのが昭和16年。戦後この計画が再燃し、路線の選定や地質調査などが行われました。松田地区では東名高速道路松田対策委員会を設立し、問題や要求など日本道路公団と話し合いを進め交渉を続けてきたのです。長い年月をかけ、この年の初夏にやっと全線開通の運びとなりました。



上／平成3年大井松田1御殿場間の拡幅工事完成
中／大井松田1御殿場間が開通
下／工事中の東名高速・松田地区内の川音川橋

1989
(平成元年)

町制80年、町民憲章が制定される

自然・文化・活力・平和・真心がテーマ。「富士や丹沢を源にする清流と豊かな緑に恵まれ、古来から交通の中心であるあしがらの地松田町はわたくしたちの誇りです。わたくしたちは、この美しい自然と人ひとがいきいきと調和した、魅力あるまちの限りない発展を願い、ここに町民憲章を定めます」

1999
(平成11年)

まつだ桜まつりが始まる

平成8年、「21世紀に花を咲かせよう」をスローガンに河津桜1000本を記念植樹してから3年後、第1回さくらフェスティバルが開催されました。「まだ幼木ですが咲きました」のキャッチコピーでPRしたところ期間中に3000人の観光客が訪れました。ひと足早く桜に出会える町の誕生です。

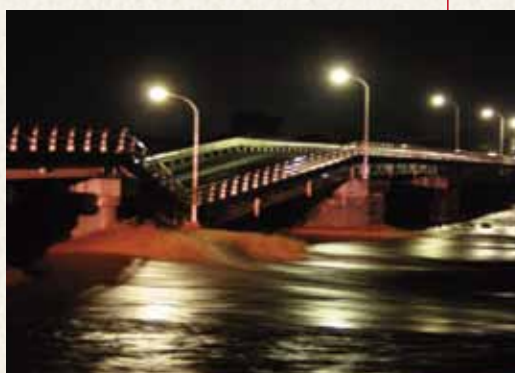


桜の幼木
第1回さくらフェスティバルにて

2007
(平成19年)

台風9号が直撃。十文字橋落ちる

首都圏を直撃して東日本を横断した台風9号。小田原付近に上陸する寸前の午前1時15分ごろ酒匂川が増水しピークに達したその時、十文字橋の途中部分がV字型に曲がって沈みました。落下直前に4台の車が橋を通過しましたが、幸い事故にはなりませんでした。



十文字橋落橋
NHKをはじめ多くの局が生中継で伝えました

2009
(平成21年)

町制100年の記念誌を発行。桜の町も定着

100年史『松田百年』を発行。「あゝそだったよね」がコンセプトの庶民的な記念誌で、松田町の歴史を振り返ることや語り継ぐ資料としても、また、桜が全国的に有名になり、まつだ桜まつりの時期には33万人が訪れ、メディアにもたびたび登場するようになりました。



2014
(平成26年)

町制施行105周年

4月1日に松田町が誕生してから105年が経ちました。町では105周年記念事業として町民文化センターでのNHK公開収録や、新たに立ち上げた企画もありました。また、町の知名度向上とイメージアップを図るため、北川大介氏と山崎一氏を「松田町ふるさと大使」に任命しました。

松田町ふるさと大使
就任した北川氏(写真右)と山崎氏



「松田百年」記念誌
次の百年を担う子どもたちへ

観光 lightsseeing

みやまの里やどりき

町の北部の奇地区は、国や県の各種制度事業を導入して、第一次産業としての農業や漁業を、サービス業的な観光産業へと転換して、地域振興を図ってきました。

また、自然とのふれあいが少なくなってきた都会の人々の憩いの場として、自然遊歩道やハイキングコース、マヌ釣り場などを整備しています。

このほかに、ドッグラン、農園、川遊び、キャンプ場など、四季を通じて魅力あるレクリエーションゾーンとして近隣都市の人々を呼び集めています。



桜と菜の花



ふるさと鉄道



西平畑公園からの眺望

西平畑公園

西平畑公園は、富士山や相模湾を望める県西の「展望台」とも言える立地の公園で、豊かな自然と足柄平野から箱根連山、富士山、相模湾、伊豆大島までの大パノラマが楽しめます。

公園内には子どもから大人まで楽しめる様々な施設があります。昔ながらの遊びを体験することができる「子どもの館」、野鳥の観察と自然に親しむことができる「自然館」、蒸気走る実物の6分の1サイズのミニS1とロマンスクーターが走る「ふるさと鉄道」、香りを楽しみ、心に安らぎを与えてくれる「松田山ハーブガーデン」などの施設です。散策路からの眺望を楽しむ散歩も人気の公園です。

最明寺史跡公園

松田山の山頂近くにある最明寺史跡公園は、豊かな緑に包まれ、明るく野鳥がさえずる自然公園です。古義真言宗の名刹で知られる最明寺は、承久3年（1221）に建立し、その後、大井町金子の地に移ったと語られ、残っている史跡は町の文化財に指定されています。

また、この公園は春になるとサクラ・モモ・ヤマブキなどが咲き乱れる春爛漫（らんまん）な状況で、それはまさに現代の桃源郷のようです。公園を通り周遊する遊歩道も整備されるなど、歴史の薫りと美しい自然が、訪れる人々の心を和ませています。



西平畑公園や最明寺史跡公園など豊かな自然と豊富な歴史、文化資源を活かし、観光資源や拠点となる関連施設の整備を図り、農業・林業・商業と連携した魅力ある観光のまちづくりを進めています。

また、近隣市町との広域的な連携による観光振興を進め、入込客が増加しています。



寄の稲郷からの眺望



寄のイチョウ

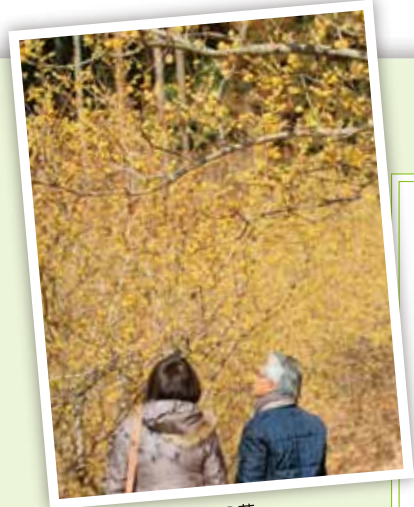
祭り estival

祭り

寄口ウバイまつり

会場となる寄口ウバイ園は地元の方々が地域振興に寄与しようと平成18年に標高380メートル付近の荒廃農地を整備し、平成17年度寄口学校卒業生が250本のウバイを記念植樹したのが始まりです。

植樹されたソシンウバイは平成27年現在、約1500本を数えるまでになりました。みやまの里を流れる中津川や自然に囲まれた景色と黄色い花の美しさで、他にはない癒しの空間に心が和らぎます。



見事に咲いたウバイの花

まっただ桜まつり

平成27年で17回目を迎えるこのお祭りは、過去には期間中に33万人もの観光客が訪れたことのある町の一大イベントです。

早咲きの河津桜、そして、雪化粧の富士山が望める大パノラマは、松田でしかみられない絶景で、写真家からも人気です。山道を走るふるさと鉄道はお客さんを乗せて大活躍。五分咲き以降ライトアップもあり幻想的な足柄平野の眺めが格別です。



松田大名行列

まっただ観光まつり

「かながわのまつり50選」に指定されている雄大な祭りは、毎年8月第4土曜日に行列、町内のどこでもかきも屋敷を問わず祭り一色に染まります。町指定無形文化財『松田大名行列』をはじめ、神輿、まといなどが町内を練り歩き、祭り会場では、ステージアトラクションなど多彩なイベントでにぎわいます。

クライマックスは、太陽が西に沈む夕暮れに訪れ、宵の松田山の頂上に「百八ツ火（ひやくはち）」と呼ばれる松明が浮かびだされます。この宵闇に連なる美しい炎は、五穀豊穡を願う農民たちの祈りの火であるとも語り継がれています。

その叙情を覚ますように、夜空高くに花火が打ち上げられ、この日の感動はやみません。

寄自然休養村若葉まつり

高峰連なる丹沢が、眩しい新緑に萌える5月5日のこの日に、寄自然休養村の若葉まつりは行われます。澄み渡る青空に、色鮮やかな鯉のぼりが群れをなして泳ぎ、元気な子どもたちの歓声が、一日中こだましています。

都市と農村交流を図り子どもたちの健やかな成長を願うこの祭りは、寄自然休養村管理センター周辺を会場にして、マスのつかみどり大会をはじめ、地場産野菜の直売など、多彩なイベントが繰り広げられます。

まっただ産業まつり

本町の産業を支える商業、工業、農業などに携わる人々が一堂に集まり「まっただ産業まつり」を開催しています。

この祭りは、地元の人々はもとより周辺各地の方々にも、本町の商店街の魅力や企業の活動内容、農産物や観光スポットを広く紹介し、地域産業の振興と発展を願ったビッグイベントです。

JR松田駅前にメイン会場を設け、周辺に商工観光、健康福祉、農業、飲食の各ゾーンを配置し、商店街ストリートには、フリーマーケットを並べ、多彩なイベントに、来場者も驚くことでしょう。



町の無形文化財である「松田大名行列」や多くの観光客で賑わう「まっただ桜まつり」など、文化や自然を活かした祭りは、観光宣伝を広く戦略的に実施しています。また、外国人観光客の招致などにより、町の国際化を推進し、世界の中の松田町が実感できるような祭りになっています。

まつだのこれから

まちづくり

道路・橋梁

東名高速道路の大井松田ICに加え、新東名高速道路の秦野ICの整備や国道246号、ハイパスの計画に伴う、交通集中による町域での渋滞を考慮した道路整備の検討を関係機関に要望しています。県道は72号（松田・国府津線）と711号（小田原・松田線）の線形改良・歩道設置事業の継続ほか、他の路線についても拡幅や線形改良、歩道設置などを県に要望し交通の円滑化と安全性の向上に努めています。



十字橋

進めるとともに、舗装打換え工事など維持管理にも努め、安全性、利便性の向上を図りながら、定住化・未利用地の活性化に必要な新設改良路線についても計画的な整備を進めます。また橋梁は、長寿命化修繕計画に沿った、修繕や耐震補強を計画的に進めています。

新松田駅・松田駅周辺整備

古くから交通の要衝として栄えてきた本町にあっては、駅周辺整備は重要課題の一つです。交通の結節点としての特性を活かした、駅前広場機能、並びに都市機能の向上と、景観に配慮した町の中心市街地としての整備に取り組んでいます。新松田駅南口周辺は、関係機関と調整を取りながら引き続き事業を進め、早期の供用開始に努めています。新松田駅北口・松田駅周辺は、駅前広場や道路等の基盤整備と都市計画制度等の導入を総合的に推進することによって、交通の結節点として、また広域的な玄関口としての機能を高め、町の中心市街地として整備に取り組んでいます。



新松田駅



松田駅

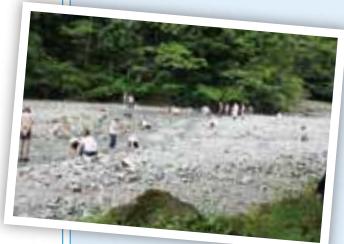
まちづくりの10年後

新松田駅南口周辺の整備により交通機能が改善され、南口利用者が安全で便利に利用できる環境が整っています。また、新松田駅北口周辺整備の検討が進められ、安全性や利便性の向上、中心市街地の活性化、魅力の創出などにつながる施策が段階的に行われています。

環境

公園・緑地

近年、町民の生活に潤いを与える憩いの場として、また住民相互の融和とコミュニケーションの場所として、さらに地震や火災などの災害から住民の身を守る避難所などとして、公園緑地の果たす役割はますます重要度を増しています。そこで、身近に安らげる公園や緑地の整備が望まれており、その施策として都市公園などの整備を行い、緑豊かで快適な住環境づくりを推進しています。現在、都市公園の総面積は6・48haであり、10の都市公園があります。今後、開発指導時においては、まちづくり条例の基本理念に基づき緑地保全に向けた指導や住民の緑化活動の支援などを行い、さらに道路や公共施設の緑化、公園整備を積極的に推進していきます。



中津川の清流



酒匂川クリーンキャンペーン

防災・消防

本町は、県西部地震などの発生が想定され、活断層の貫通地などの観点から、防災に対する日頃の備えが極めて重要な地域です。そこで、自主防災組織主体の訓練や防災資機材の整備に努めています。災害発生時の初動体制や情報提供体制、公共施設の耐震化の推進や防災拠点など、多角的に危機管理体制を構築していきます。また消防は、140名の編成による消防団と小田原市消防本部（消防・救急業務）により不測の災害に備えています。消防水利や施設の整備を推進するとともに、自主防災組織の人づくり事業による新たなボランティア組織の育成も視野に入れ、町民が安心して暮らせる町づくりをしています。



松田町消防団

生活環境・ゴミ

風光明媚な本町では、美しい町づくりをめざし、環境保護の意識啓発とともに「ゴミの減量化」と分別の徹底を講じ、「ゴミ処理に対応する新たな廃棄物処理体制の強化を推進しています。また、足柄東部清掃組合と連携し、多様化する廃棄物への対応とリサイクル可能な資源や乾電池などの有害物に関する収集処理などについても効率化を図っています。さらにPRの強化により、町民の環境保護意識とモラルの高揚や自主的な美化運動を支援しながら、「ゴミの減量化や資源再利用の施策を推進しています。美しい自然環境に恵まれ、情操を尊び美意識の高い松田の生活風土は、他地域から訪れる人々の、見えないもう一つの観光資源であります。

公園や児童遊園地の計画的な施設整備や維持管理により、だれもが身近に、気軽に利用できる環境が整っています。また、町民一人ひとりが「自らの地域と身体の安全は自らが守る」という理念に基づき、日頃より被害を少しでも減らすことを意識した「減災活動」に取り組んでいます。生活環境については3R運動の推進・分別・排出抑制が進んでいますが、更なる資源の有効活用と廃棄物の減量化が図られています。

環境の10年後

保健福祉

地域福祉

高齢社会の到来により、新たな制度の改革が急務となりました。本町では、地域包括支援センターを直営するほか、社会福祉協議会の活動助成、地域住民ボランティアの自主活動、生きがい事業団の活動強化などを図り、福祉活動、健康づくり活動を推進しています。

低所得者福祉

生活保護率は、交通の便が良く医療機関が充実している本町の立地から、隣接する町と比較して高い傾向があります。内訳として高齢化の影響による医療扶助が増加するなど、自立が難しい状況にありますが、民生委員や関係機関と連携し、自立の助長に向けた支援を行っています。

高齢者福祉

高齢者の在宅福祉サービスや高齢者の健康的な生活支援のための事業、介護予防事業などを地域包括支援センターを拠点に、継続的かつ積極的に取り組んでいます。

障害者福祉

障害児者が安心して暮らせる町づくりとして、地域ボランティア活動の充実、障害者も使いやすい公共施設への整備などを行います。総合自立支援法によるサービスなどの支援を通じて、地域の福祉施策を推進しています。

児童福祉

児童手当や小児医療費などの扶助はもとより、厳しさを増す子育てを保育所、学童保育、子育て支援センター、ファミリーサポートなどの環境を整備することにより支えています。また、水道料の基本料金を補助する制度やチャイルドシート購入補助、就園料補助（ひとり親家庭など）の町独自の事業を展開し、すべての子どもに笑顔を、そして安心して喜びを感じられる子育てができる体制を目指しています。



健康のための体操

寄総合センター

寄出張所では、各種証明の発行などの事務を行い、診療所では住民の健康を守っています。

保健・衛生

健康づくり体制として保健師や健康づくり普及員、母子保健推進員の充実を図るとともに健康教育、健康相談事業、各種検診などの健康管理の体制を確立しています。また、町民自らが健康維持・増進に努められるよう、健康づくりの応援体制の充実を図り、元気で明るい町づくりを行っています。

医療衛生

県立足柄上病院、町立国民健康保険診療所をはじめ、町内には16の医療機関があり、町民の健康管理と疾病治療の対応に万全を尽くしています。また、近年、休日や夜間の患者が増える傾向にあり、今後さらに広域的な医療体制の充実強化を図り、安心して暮らせる町づくりに努めています。



健康福祉センター

健康福祉センター

健康福祉センターは、社会福祉協議会、入浴施設、生きがい事業団、KOMNYすみれの家が集結し、また、健康相談・健康教育、各種検診などの保健センターとしての機能も完備した総合施設です。

この施設の最大の特徴は、防災機能を併せ持っていることです。地震の揺れを吸収する免震工法を取り入れ、マグニチュード7.5クラスの地震でも機能が確保されています。また、専用の井戸を掘って水を確保しています。

町営住宅

現在の町営住宅は、昭和46年度以前に建てられたものが大部分で、老朽化が著しいため空家となった住宅は順次解体しています。平成10年～11年度には、河内地区に3階建て16戸の集合住宅を建設しました。この建物は、エレベーターや手すり、スロープなど、高齢者などの方にも配慮したものとなっています。今後は籠場地域に新たな町営住宅建設も予定しているほか、子育て世代の利用も想定した施設の整備を実施しています。

介護保険

高齢社会の進展により、介護の問題が老後の最大の不安となっています。介護が必要になっても、残された能力を活かしてできる限り自立し、尊厳を持って生活できるようにするため、家族だけで行う介護から社会全体で支え、利用者の希望を尊重した総合的なサービスが安心して受けられるように、介護保険制度を実施しています。制度の円滑な運営のため、事務体制整備や民間サービス事業者の参入促進などを図っています。



子育て支援センター



定例ウォーキング



様々な子育て支援事業

保健福祉の10年後

住み慣れた地域で、だれもが人生の最後まで自分らしく暮らせる「21世紀まつだ型コミュニティの再生」に向けて、協働できる地域づくりが進められています。また、あらゆる主体が連携し、子育て環境の充実が図られ、成長して子どもが将来、松田町で子育てをしたいと思える町づくりが完成しています。

教育

education

幼児教育

近年、少子高齢化や人口減少など、社会問題が多様化していく中、幼児教育も社会の変化地域の要望などに対応していくことが望まれます。本町では、平成24年に第一幼稚園と第二幼稚園を統合し、第一幼稚園の園舎を松田幼稚園としました。また、第二幼稚園跡地は、社会福祉法人に10年間無償貸与し、平成25年より松田さくら保育園として開園しています。

幼児教育では、心身ともに健全な子どもを育成していくために、教育カリキュラムの充実、施設面での拡充などだけでなく、保育時間を延長した預かり保育等も行い、子どもの成長を促進するための総合的な教育環境の見直しを図っていきます。また、義務教育への就学をスムーズに進めるために、小中学校との連携教育を進めていきます。

今日では、地震等の災害時の安全対策も重要課題となっています。本町では、不測の事態に対応できることを目的として、日頃より子どもに対する安全教育を行い、将来を担う子どもたちを守る体制作りを構築しています。



町民大学

生涯学習

急激な社会情勢の変化に伴い、生涯学習に対する町民ニーズは、年々高まる傾向にあります。本町では、過去に国と県から「生涯学習モデル町」の指定を受け、その組織体制の整備をはじめ、地域人材の発掘や活用、また、生涯学習の情報提供や学習相談などに積極的に取り組んできました。

さらに学校、家庭、地域との太い連携を図り、新しい学習プログラムの開発、生涯学習推進大会などを実施しながら、多様化する町民の学習ニーズに応えてきました。

学校教育

広い視野に立った思考力・判断力・表現力豊かな児童・生徒の育成を目標にして、授業改善や学校行事の取り組みの充実を図るとともに、タブレット端末等のICT事業などの教育施設の整備を進め、児童・生徒にとってよりよい校内環境づくりに努めています。

今日的な課題である災害時の安全教育の推進や小学校における英語教科化に向けて、また、中学校での英語教育の充実を図るため、外国人教師による授業の充実を図っていきます。

特別支援教育では、インクルーシブな考え方を大切にして、子ども一人ひとりのニーズに応じた教育や交流教育を推進しています。



タブレットを使った授業

教育の10年後

英語教育の充実やタブレット授業などのICT教育により、国際化社会や情報化社会に適応した環境が整っています。

また、幼稚園・小学校・中学校が教育方針を共有し、一人一人の発達と個性に応じた教育が実践されることにより、自立心と社会性に富む人材が育成されています。

文化

ulture

自然館

恵まれた自然環境を町の貴重な財産として、野鳥や植物を観察しようとして設けられた自然館は、西平畑公園のふもとと鉄道に沿った踏切り近くにあり、町民をはじめ周辺各地から訪れる自然愛好家が、年間1万5000人を越す人気スポットです。館内にはバードカーヴィングや四季折々の植物の展示など、手に取って観察できる工夫がされています。

また、毎月テーマを決めて、身近な観察や体験学習も常時開催しています。このように自然館は豊かな松田の魅力と自然の大切さを教えています。



奈良時代の直刀及び鎌(やじり) ※松田町指定文化財

子どもの館

子どもの館では、毎月行われる季節感に富んだ、多彩なイベントが人気となっています。

大型百人一首で遊ぶ子どもまつりやお山の音楽会、また、毎月の折り紙にチャレンジしたりと、月ごとに季節の旬を集めた催事が展開され、子どもたちの心を釘付けにしています。南面の芝生からは、足柄平野を眼下に相模湾・伊豆大島まで眺めることができます。

町民文化センター

日進月歩で変化する現代社会に、新しい情報は目白押し、学ぶことに終わりはありません。学びを深める事は、年齢の枠を超えた私的な財産です。生涯を掛けても余りある果てしない知的好奇心の世界です。

そのような、生涯学習の場を提供しようとする文化活動の拠点として建設されたのが、町民文化センターです。音楽や演劇の鑑賞・発表に、また、地域の社会活動やサークル活動の交流の場として町民文化センターは利用されています。施設は、人に優しいスロープ、展示ブロックなどを設け、大ホール、図書館、公民館とともに皆さんを迎えています。

生涯スポーツ

体力づくり、健康増進の観点から、多くの町民がスポーツに親しみ、誰もが参加できるように、体育協会、スポーツ推進委員会が主体となり、楽しいレクリエーションや親睦スポーツ大会を開催しています。

また、町民のニーズにあった「ニュースポーツ大会」の調査研究を行い、スポーツ団体の強化と連携を促進し、生涯スポーツ活動の支援にも努めています。

施設整備は、酒匂川町民親水広場や町体育館などの整備を充実させ、健康づくりを含めた生きがいとなる生涯スポーツの振興を図っています。



四耳壺(しじこ) 三耳壺(さんじこ) 梅瓶壺(めいびんこ) ※大蔵院所蔵

文化の10年後

町民文化センター(町立公民館)は、利用者の安全性、利便性を考慮し文化活動の拠点として計画的な施設運営が図られています。また、伝統芸能等町無形文化財の伝承の重要性を多くの町民が認識し、次代へ伝承していく後継者を育てています。

文化交流

千葉県 横芝光町

美しい九十九里自然公園のほぼ中央に位置する、千葉県山武郡横芝光町は、全国でもネギの産地として名高いことで知られています。

「横芝光町」の前身である旧・光町と松田町は、昭和43年12月1日に姉妹町の提携を結び、文化交流を続けています。

光町の面積や人口、行政予算などの規模が松田町と同等で、何よりも光町がこれからの町の発展の目標として、先進的な町を近隣の神奈川県に求めていたこと、松田町も行政上の相互研鑽を図ることを目的に始まりました。途中、光町が市町村合併により、横芝光町となりましたが、平成18年11月3日に横芝光町と姉妹都市を提携し、その関係は現在も続いています。お互いの産業まつりに特産品の出品をしたり、スポーツ交流を行ったりと、両町の関係はますます深くなっています。



まつだ産業まつりでの交流



横芝光町での松田町ブース



横芝光町でも人気の町のミカン

行政議会

行政組織

急速な社会情勢の変化や住民の価値観の変化に伴い、行政需要は複雑・多様化してきています。平成26年度には、新たな行政需要に対応するために、大規模な機構改革を実施しました。

平成19年度以降、行政改革の視点から、職員の定数や給与の削減、部制の廃止などの組織の統合、更には指定管理制度による民間活力の導入を推進し、財政面での効果を生んできました。しかし一方で、住民サービスの創設や内容の充実、権限譲渡などによる事務量の増加は、職員の間外勤務の常態化を招くようになっていました。

このような状況を改善し、住民サービスを維持し、山積みする行政課題に対応するため、平成26年10月1日からは、10課2担当室24係体制（教育委員会の3係（1係増）を含む。）として、課の所管業務を明確にするとともに、専門性を高め、行政サービスの向上を推進しています。

広報・広聴

地域と行政の相互理解と連携強化が求められる現代、広報と広聴の重要度はますます高まっています。それに対応するために、広報紙などの刊行物により町から発信する情報については、必要とされる情報をわかりやすく提供するように努めています。

また、住民の意向を把握する機会を充実するため、町民懇話会やアンケート等を通じて行政への民意反映に努めています。

議会

松田町議会は、行政に町民の声を反映するため選挙で選ばれた12名の議員で構成されています。年4回の定例会と、必要に応じて開催される臨時会において、予算や決算など町民生活に深い関わりを持つ重要な事項を審議・審査しています。

また、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会では、それぞれ所管する議案や陳情などについて、専門的な審査を行います。



松田町議会議場

行政議会の10年後

町民が行政運営やまちづくり等に直接参加できる環境がより整備、拡充され、地域住民と企業、町がともに考え、責任を担う協働のまちづくりが進められています。

その結果、「松田町」を町民に知ってもらう機会が飛躍的に増加し、多くの町民の声をまちづくりに反映させることができています。

行政議会

行政改革

安全かつ良質な公共サービスが確実に、効率よく実施でき、行政への多様化するニーズに柔軟かつ弾力的に対応できる基盤づくりを行わなくてはなりません。

そこで、行政改革を進めるにあたり、単に行政組織を減量、減少するのではなく、今後予想される社会の経済情勢の変動に、柔軟に対応しうる体制づくりが肝要であるため、今後も職員の意識改革と質の向上を図り、新たな時代に挑んでいきます。



		市外局番(0465)
松田町役場	松田惣領2037	☎83-1221
寄出張所	寄2538	☎89-2126
町民文化センター	松田惣領2078	☎83-7021
町立公民館	松田惣領2078	☎83-7021
健康福祉センター	松田惣領17-2	☎84-1195
子育て支援センター	松田惣領1192-5	☎83-3088
国民健康保険診療所	寄2538	☎89-2119
寄自然休養村管理センター	寄3415	☎89-2960
寄ふれあいドッグラン	寄5605	☎89-3113
松田幼稚園	神山404	☎83-2517
寄幼稚園	寄2505	☎89-2452
松田小学校	松田庶子204	☎82-0371
寄小学校	寄2540	☎89-2201
松田中学校	松田惣領1400	☎82-2261
寄中学校	寄2549	☎89-2234
松田山ハーブガーデン	松田惣領2951	☎85-1177

information

i 松田町の施設